



人と仕事の価値とは何か

(6月のごあいさつ)

平成28年6月1日(水)

6月になると、周囲の緑がほんとうに生き生きとしてきて、自然のエネルギーを強く感じます。

「人はパンのみに生きるに非ず」とは旧約聖書にあるモーゼの言葉である。イエスが、四十日間の断食の後、悪魔の最初の誘惑を退けるために、この言葉を旧約聖書から引用したといわれている。人は物質的満足のみを求めて生きるのではなく、**精神的充実**をはかってこそ生きるということであろう。

人が働くということはまさにこのこと、**心の糧**を得るためだと思う。

企業が人を雇うとき、人的資源としての**労働力**のみを雇うわけではない。企業にとっての**コスト**としての賃金は、人からみたときのそれは、**所得**としての賃金であり、**生計の資**である。これが**原材料や機械**を調達することと**労働力**を調達することの大きな違いである。そして、人にはほかの物的資源にはない**調整し、統合し、判断し、想像する能力**があり、それは人が単なるコストではなく、**所得**としての賃金を得て人間としての生活を充実させ満足を得る。

この点において、**企業は人を雇用する必要**があり、**人は働くことの意味**をそこに見出さなければならない理由があると思う。

また人の側から言えば、人は働かなければ**道徳的にも肉体的にも墮落**する。ところが、人が行っている現在の仕事は、機械による自動化によってどんどん奪われつつある。これらの**急激に省力化されつつある仕事**は本来人の仕事ではなかったと単純に考えるべきだろうか。しかし、現在人が行っている仕事の中には省力化できる部分が余りにも多い。社会の流れは、**第4次産業革命**といわれる機械による製品やサービスの提供が急速に進みつつある。AIやロボットが更に普及する10年後にも、**人にしかできない仕事を、人や企業が創出し続ける**ことが人の仕事を維持することの条件である。

京都府知事を28年の長きに渡って務めた蜷川虎三知事が、議会答弁で度々活用したという中国古代の兵法書**尉繚子**(うつりょうし)は、**戦の要諦は天文や陰陽による占いではなくて、あくまで人事を尽くすことだ、「占いよりも人事をつくせ」と人の能力を徹底して認めている**。人の能力は当時の神より高いと古来の兵法家は言っているが、この人事の非人間的部分、機械的部分が益々拡大していったら、**社会における人間的能力はどこまで維持できるの**だろうか心配になることもある。